

群 教 セ	G09-03
	平 28. 261 集
	英語一高

自分の考えを論理的に 英語で伝えようとする生徒の育成

— 1年間を見通した継続的、段階的なアウトプット活動を通して —

特別研修員 菅沼 雅美

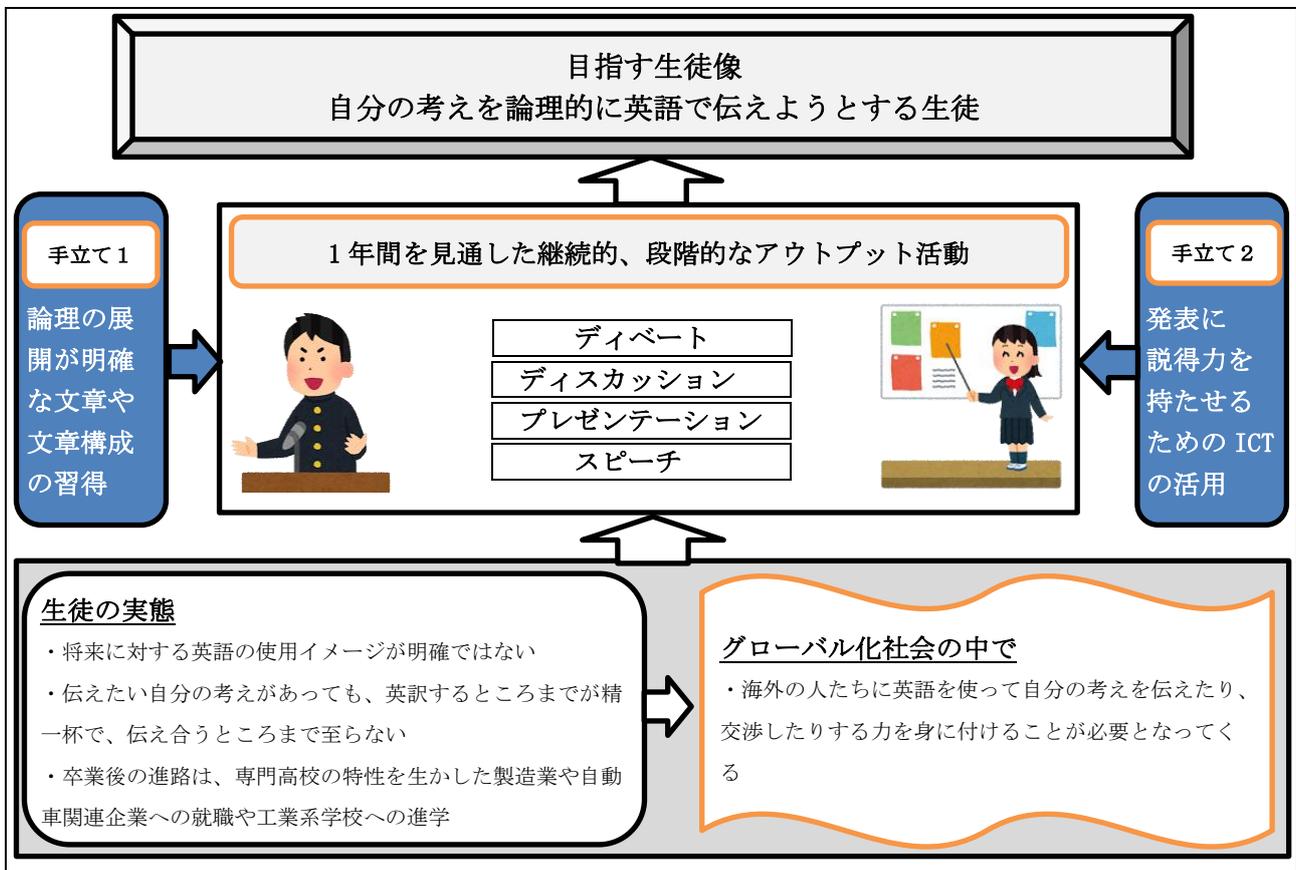
I 研究テーマ設定の理由

平成25年文部科学省の「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」の中で、新たな英語教育の在り方として、言語活動を高度化（発表、討論、交渉等）することが掲げられている。それに伴い、次期新学習指導要領では、外国語による発信能力を高める新科目として「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（仮称）」が設定される予定である。

本校生徒の実態として、将来の英語使用のイメージが明確ではなく、そのことが英語学習への意欲の停滞にもつながっている。また、伝えたい自分の考えがあっても、英訳するところまでが精一杯で、伝え合うところまで至らないのが現状である。しかし、卒業後の進路は、専門高校の特色を生かした製造業、自動車関連企業への就職や工業系の学校への進学が多い。グローバル化する社会の中で、海外の人たちに英語を使って自分の考えを伝え、交渉する力を身に付けることが必要となってくる。自分の考えを論理的に英語で伝えようとする生徒を育成するために、1年間を見通した継続的、段階的なアウトプット活動（スピーチ、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート）を通して、英語学習への意欲を高めていきたい。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

1年間を見通した継続的、段階的なアウトプット活動の実践計画を立てる。

【スピーチ (Show & Tell)】⇒個人での発表

1学期	2学期	3学期
「My favorite」	「Summer vacation」	「My recommended」
5文以上	7文以上	10文以上
原稿を見ながらOK	メモを見ながらOK	相手意識を持って発表する

【プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート】⇒グループでの発表

1学期	2学期	3学期
Lesson2 「Bento」	Lesson4 「My school, your school」	Lesson8 「Convenience stores」
弁当派と給食派に分かれてディスカッション、ディベート	自分の学校の良い点、悪い点についてプレゼンテーション	コンビニの自分のおすすめ商品をプレゼンテーション

以上の計画を基にして、次の二つの手立てを通して自分の考えを論理的に伝えようとする生徒を育成する。

手立て1：論理の展開が明確な文章や文章構成の習得
手立て2：発表に説得力を持たせるためのICTの活用

論理の展開が明確な文章でよく使われる語句（つながりを示す語句、事実や意見を表す語句）や文章構成（順序を表す語句）を生徒に提示し、生徒たちはそれらを使って自分たちの考えを論理的に表現できるようにする。

また、発表する際、分かりやすく説得力を持って伝えることができるように、パワーポイントを使って写真や資料を添えて自分の考えをまとめたものを、プロジェクタで投影しながら発表する。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 1年間を見通した継続的、段階的なアウトプット活動の実践計画を1学期の初めに生徒に提示したことで、生徒は目標を達成することを意識しながら、主体的、意欲的に活動に取り組むことができた。また、反省点や他の人の発表の良い点を取り入れながら、次回の発表につなげていくことができ、成功体験を積み重ねることで、発表に対する自信や表現力を身に付けることができた。
- 論理の展開が明確な文章でよく使われる語句（つながりを示す語句、事実や意見を表す語句）や文章構成（順序を表す語句）を生徒に提示し、それらを使って自分の考えをまとめる活動を繰り返し行うことで、英語特有の文章や文章構成を習得し、聞き手に分かりやすく説得力を持って伝えることができた。
- ICTを活用したことで、聞き手の興味・関心を引き、分かりやすく伝えることができた。特に、言葉だけでは伝えられないもの、伝えるのに時間がかかるものは、写真や資料を使うことで、自分たちの考えに説得力を持たせることができた。

2 課題

- アウトプット活動において身近な話題を設定したことは、発表者にとって伝えやすかった反面、多くの生徒が知っている情報や共通する考えになってしまうことが多く、聞き手が分かりきっていることを一方的に「伝える」活動が中心となってしまった。内容に関して質疑応答したり、賛成・反対の意見を述べたりといった双方向の「伝え合う」活動を行うためには、生徒によって持っている情報が異なるような話題を設定することも必要である。
- 例文を参考にして自分たちの考えを英文にし、それらを暗記して発表を行ったが、実践的なコミュニケーション力を高めていくには、即興型のアウトプット活動の指導を工夫していく必要がある。

実践例

1 単元名 「Lesson 4 My school, your school」 (第1学年・2学期)

2 本単元について

本単元は、フランス、ペルーと日本の学校生活の違いについて述べられている。文化や生活が、学校生活の特色に影響を与えていることを学び、外国の学校と日本の学校の相違点を理解し、自分の学校の特色について、英語で話すことができることを目標としている。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	外国の学校と日本の学校の同じ点や異なる点について理解し、自分の学校の特色について英語で話すことができる。	
評価 規 準	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	自分の意見を積極的に出し、相手の意見を聞き取ろうとしている。
	外国語表現の能力	つながりを示す語句や事実や意見を表す語句、順序を表す語句を使って、自分の考えを英語で書いたり話したりすることができる。
	外国語理解の能力	話の内容を、要点をつかんで理解することができる。
	言語や文化についての知識・理解	外国と日本の学校の相違点を理解し、それぞれの文化の特性を尊重することができる。
過程	時間	主な学習活動
課題把握	第1時	・世界の学校の様子を知り、日本の学校との違いを理解する。
課題 追究	第2時	・新出単語や表現、不定詞の用法を理解する。
	第3～ 5時	・内容を理解し、その要旨を簡単な英語で書いたり話したりする。 ・Q & A, True or Falseを使って、内容を理解する。
まとめ	第6、7 時	・班ごとに、自分の学校の良い点、悪い点について意見を出し合い、まとめたものを英文にし、パワーポイントを使って発表する。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全7時間計画の第7時に当たる。単元のまとめとして、自分の学校を紹介するプレゼンテーションを行う。教科書のレッスン4において、国によって学校生活の違いがあり、その違いに優劣があるのではなく、国の文化の特性と関連していることを学んだ。そこで、自分たちの学校の特色を考える際も、違いに優劣があるのではなく、学校の特性と関連していることを理解した上で、自分たちの学校の特色についてグループで意見を出し合い、まとめる。良い点と悪い点を比較することで、自分たちの学校の特色を分かりやすく聞き手に伝えることが可能となる。

そこで、次の二つの手立てをもとにして、プレゼンテーションを行う。

手立て1

論理の展開が明確な文章(つながりを示す語句、事実や意見を表す語句)や文章構成(順序を表す語句)を掲示し、それらを使うことによって、自分たちの考えを聞き手に分かりやすく説得力を持って伝えることができるようにする。

手立て2

パワーポイントを使って、写真や資料を添えて自分たちの考えを英語で発表する。写真や資料を使うことによって、相手に分かりやすく説得力を持って伝えることができるようにする。

4 授業の実際

(1) 「Summer vacation」をテーマとした Show & Tell 活動

一人一人前に出て Show & Tell を行った (図1)。夏休みに関する写真をプロジェクタで投影しながら、7文以上の英文で発表した。聞き手は、発表者への評価シートをもとにして、態度、声、内容に関して5段階で評価をした。また内容に関して日本語で感想を書き、発表者に対して英語で質問をした (図2)。



図1 Show & Tellの様子

SPEECH EVALUATION SHEET (スピーチ評価シート)

[Redacted]	attitude(アイコンタクト・ジェスチャー)	5	4	3	2	1
	voice (強弱・発音・スピード)	5	4	3	2	1
	contents (内容・構成)	5	4	3	2	1
comments (コメント)		ミブアはあきらまじく がんばるよ、				
Questions (質問)		Did you quit your club?				
*日本語で		*英語で				

図2 発表者への評価シート

(2) Topic についてのグループ活動

次に、1グループ4人編成で、自分たちの学校の良い点、悪い点について日本語で意見を出し合った。他の学校にはない自分たちの学校の特色を考えて、意見をまとめることができた (図3)。

(3) ワークシートを活用したプレゼンテーション準備

ワークシートを使って、良い点、悪い点を英文にした (図4)。その際、図5のように、つながりを示す語句や事実や意見を表す語句を掲示し、それらを使って、自分たちの意見を英文にした。発表する際には、図6のように論理の展開が明確な文章構成を掲示し、それらを使って自分たちの学校を紹介した。4人全員が必ず発表できるように、自分の番号の箇所を発表するよう分担した。



図3 グループ活動の様子

(a) 目的の学校が良い。 Our school is close to Kirinaka Zoo. だから、 So, 遊べることが出来る。 We have a chance to go there at L.H.S.	(a) 目的の学校が悪い。 We have no music lesson. それゆえ、 Therefore, 運動の授業を先生が担任してくれない。 We have to remember the school song by ourselves.
We are very friendly. so, we are excited at school events.	school field is small. therefore base ball club can't practice here

図4 ワークシート

つながりを示す語句

①対比… on the other hand (一方では)
 however (しかしながら)

②例示… for example (例えば)

③理由… because (なぜなら)
 therefore (それゆえ) so (だから)

④根拠… in fact (実際)

事実や意見を表す語句

⑤事実… It is said that~
 (~とされている)
 Data show that~
 (資料では~と示している)

⑥意見… I think that~ (私は~と思う)
 I guess that~ (私は~と推測する)

図5 つながりを示す語句などの掲示

① We are going to talk about our school.
 There are good points in our school.

② _____

③ However, there are bad points.

④ _____

Thank you for your listening.

* _____ は、つながりを示す語句

* _____ には、自分たちの考えた良い点・悪い点を入れる

図6 論理的な文章構成の掲示

(4) パワーポイントを活用してのプレゼンテーション

パワーポイントを使って、自分たちの学校の良い点、悪い点について、グループごとに発表した（図7）。写真や資料を添えることによって、聞き手に分かりやすく説得力を持たせることができるように工夫した（図8）。また他の班の発表を聞きながら、内容に関して簡単なメモと、賛成か反対かの意見を日本語で評価シートに書き、声の大きさ、態度、内容に関して5段階評価をした（図9）。最後に授業のまとめとして、振り返りシートを使って本時の活動のまとめをした（図10）。



図7 発表の様子



図8 生徒の作品

Good Points	Memo	1	2	3	4	5
Agree/Disagree	いろいろ3つで 評価がわかる		同意	賛い べつべつ	不評(同意) ない	
	Agree		Agree	Agree	Agree	
Bad Points	Memo	1	2	3	4	5
Agree/Disagree?	校舎が 広い		若い先生 が多い	校庭が 大きい	駅から遠い 山いふい つがゆ	
	Agree		Agree	Agree	Agree	
Attitude		1-2-3-4-5	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5
Volume		1-2-3-4-5	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5
Contents		1-2-3-4-5	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5

図9 発表者への評価シート

reflection Sheet (C英1) Date: 13

★評価基準
よくできた1-4点 発表態度でまた1-2点
少しできた1-1点 全くできなかった0点

1) 内容理解について
① 4点 ② 4点 ③ 2点 ④ 1点 ⑤ 0点

2) 行動・態度について
① 4点 ② 4点 ③ 4点 ④ 4点 ⑤ 4点

④チームで協力する ⑤チームに貢献する

3) 各自の発表について・・・必ず評価について書いてみてください
①おもしろく感じました/②おもしろく感じませんでした
③おもしろくない/④おもしろくない/⑤おもしろくない

⑤今日の発表は自分にとってプラスになりましたか
⑥その他/意見/感想

1 先生にお礼です
2 楽しかったです
3 いろいろ勉強になりました

図10 振り返りシート

5 考察

帯活動では、各自が1学期の反省点や他の人の発表の良かった点を取り入れながら、2学期の目標を9割の生徒（18人）が達成することができた。1学期は紙を見ながら発表した生徒が、2学期はメモを見ながら聞き手を見るよう意識して発表した。その結果、発表者への評価シートでは、態度（アイコンタクト・ジェスチャー）の箇所が1学期と比べて評価が上がった。発表する上で、内容と同時に態度も重要であることに気付くことができた。

プレゼンテーションでは、つながりを示す語句や事実や意見を表す語句、順序を表す語句を掲示し、それらを使って自分たちの考えをまとめることで、聞き手に分かりやすく説得力を持って伝えることができた。しかし、つながりを示す語句を適切に使うことができていないグループもあったので、つながりを示す語句を掲示するだけでなく、文章のつながりを考えてどの語句を使えば適切かを考えさせる必要がある。

また、発表者への評価シートにおいて、ほとんどの生徒が発表の内容を理解し、要点を捉えられたと評価している。また、振り返りシートにおいて、9割以上がプレゼンテーションに意欲的に取り組むことができた、と回答した。しかし、プレゼンテーションの題材が身近な話題だったため、発表者にとってはいろいろな意見を出すことができた反面、聞き手の生徒には知っている内容だったため、その後の発表者への質疑応答が活発に行われず、評価シートでの賛成か反対かのジャッジも、ほとんどが賛成であった。アウトプット活動の題材に合わせて聞き手を設定することや、自分だけが知っている情報や自分が調べた情報を発表するような活動を実践することで、発表者と聞き手双方向のやりとりを可能にすることができるであろうと考える。

ICTを活用したことで、聞き手にとって分かりやすく興味・関心を引く発表をすることができた。特に写真を使用したことは、聞き手の知らないもの、見たことがないものを映像で確認することができるため、話の説得力を持たせることができた。また、内容に関して、資料を添えた発表と資料のない発表を比べると、説得力に差があるということ、実際の活動を通して生徒たちは気付くことができた。